



# 日台稲門会

NEWS LETTER 第15号

平成 21 年(2009 年) 民國 98 年

2 月 1 日 発行

発行 日台稲門会事務局  
編集 石川・小野間・齋藤

「100年に一度の」経済危機2009年を迎え、ひと月が経ちました。これを「100年に一度」のチャンスにしたいもの。さてもう春節も終わり、日台稲門会ニュースレター— 冬号 —をお届けします。

## 日台稲門会・台湾校友会NEWS

### 早稲田大学台湾校友会年次総会 盛大に開催される

(平成20年11月29日(土) 台北・新光人壽大樓 16階)

2008年11月29日、早稲田大学台湾校友会総会が開催されました。

今年は、7月にオープンした「早稲田大学台北国際交流センター(早稲田大学台北事務所)」のある、新光人壽大樓16階での開催でした。

登録を終え、先ず5階にある台北国際交流センターを、同センター・岡本宏一主任の案内で見学しました。会議室、事務室、談話室、閲覧室と設備も整っており、留学生が増えることが期待される印象でした。

定刻18:00、台湾校友会・董炯熙会長の挨拶で総会がスタートし、来賓の白井克彦総長、三田會・陳田柏会長の挨拶に引き続き、日本からの各稲門会(千代田、福岡、沖縄、行政書士、日台)との礼品交換及び各代表の挨拶が行われました。更に台北国際交流センターの岡本宏一主任が紹介され、今後の運営などの説明が行われました。最後に鄭文哲総幹事より、挨拶と台湾校友会の業務報告が行われ、総会を終了しました。

19:00、台北稲門会・川田博幸会長の音頭で乾

杯を行い、第二部の懇親会がスタートしました。約200名の出席者同士彼方此方で交歓が行われ、許世楷・駐日代表處前代表、羅福全・亞東協會前会長もお元気に姿で歓談されておりました。日本からの留学生、日本での留学が終わり大学に戻った陳昱竹さん、就職された黄巧如さん等若い人も沢山参加されており、例年になく華やいだ雰囲気がありました。日台稲門会前幹事で、現在台湾で仕事をされている羽原美紀さん、小林重雄さんも元気に参加されておりました。

宴も終わりに近づき、早稲田大学野球部の台湾遠征以来、台湾ですっかり有名人となった行政書士稲門会・山下政行副会長の指揮で校歌を高らかに歌い上げ終了しました。

当会からは、一色、岩永、大嶋、小野間、江、新田、藤井、丸山、境の9名と同伴者2名、計11名が参加しました。

なお来年の総会は11月末、高雄で開催の予定です。(幹事長・小野間記)



小野間幹事長と董・台湾校友会会長



後列 大嶋、羽原、境、藤井、一色、小野間、岩永、江  
前列 江夏健一総長室特命参与、丸山、堀口健治副総長

## 早稲田大學台灣校友會總會翌日の娯楽活動（ゴルフ）参加報告

(平成20年11月30日(日) 老淡水)

總會翌日の11月30日、台灣校友會より娯楽活動としてゴルフと観光をセット頂きました。私はゴルフに参加したのでその模様を報告します。

今回8日間滞在しましたが、連日天気が良く、また暖かい日が続きました。当日も気温が若干低めながら快晴で、日本から来た者にとってはとても良いゴルフ日和でした。場所は台湾を代表する名門の老淡水、参加者は白井総長、董会長始め12名でした。白井総長はこの後別の予定があり6:00の早いスタートで、我々のスタート前にホールアウトし、参加者全員でお迎えしました。

我々は11時過ぎにスタート、同伴者は台灣校友會の許宗熙氏、台北稲門会の齋藤征二氏、ゲストの廖さんで、前の組が当会岩永さん、台灣校友會陳光敏さん、台北稲門会川田さんの飛ばし屋グループ、後の組が台灣校友會の蔡さん、行政書士の奥山さん、台北稲門会の渡辺さんのテクニシャングループでした。

淡水特有の強い風が吹き始め、癖のあるグリーン、長い距離に悩まされましたが、和気藹々のゴルフでとても楽しい一時でした。

プレー終了後は、ゲストルームで淡水名物の台湾料理とお酒で歓談しました。話題は自ずとこの日のプレー内容、レンタルクラブながら素晴らしいスコアで回った奥山さんは、早速次回早慶戦

ゴルフの助っ人に指名されていました。素晴らしいコース、気の合った仲間、美味しい料理、これがゴルフの楽しみです、正にその通りの一日でした。

因みに私は、翌日も同じメンバーで老淡水を連荘し、また帰国前日は北海球場でプレーし、1年振りの台湾でのゴルフを堪能してきました。

全員で写真を撮る機会がありませんでしたので、アウト1番の風景を添付します(幹事長・小野間記)。



## 11月30日夜國賓ホテルでの会食

(平成20年11月30日(日) 四春園)

總會翌日の11月30日夜19:00より、台灣校友會幹部の董炯熙会長、謝南強前会長、鄭文哲総幹事より、國賓大飯店2階「四春園」にて会食のお招きを受けました。参加は千代田、福岡、行政書士、日台の4稲門会で総勢13名の宴会でした。

この日は日曜日という事もあり、國賓大飯店の2階各室は結婚式で大いに賑わっておりました。

董会長の總會参加への謝辞で開宴、次々と出てくる料理と紹興酒で楽しい一時を過ごさせて頂きました。

この日の話題は観光ツアーで行った桃園神社で、その保存に尽力されている鄭総幹事から、桃園神社の概観、戦前の状況、上部を切り取られ「双十型」で残る大鳥居の謂れ等詳しく説明を受けました。私は台湾駐在時も行っておりませんでしたので次回訪問時は是非行ってみようと思っています。

もう一つの話は、今台湾で大評判の映画「海角七号」でした。特に南部出身の台湾人には風景、言葉、人情等がとても懐かしいようでした。私は帰国前夜観る機会がありましたが、台湾人と日本人との60年前の恋文を下敷きにした恋愛物語で、

全編を通じ台湾人の明るさ、優しさ、善良さ、逞しさが上手く描かれている映画で(詳しくは別項「映画評」を参照)、謝さんや台湾の友人達が観ることを勧めた理由が分かりました。

台灣校友會の心のこもった宴会で至福の一時でした。当会からは一色、岩永、大嶋、小野間の4名が参加しました。董会長、謝前会長、鄭総幹事ありがとうございました(幹事長・小野間記)。



手塚・千代田稲門会会長、謝・台灣校友會前会長、小野間幹事長

## 台湾校友會「桃園神社」観光参加報告

校友會總會翌日の「娯楽活動」で観光コースを選んだ人の多くは、配られた観光行程表をながめて驚いたに違いない。当日、目的の桃園神社へ行くバスに同乗し、現地で案内・解説してくれるガイドとして、「片倉佳史」氏の名前が記されていたからだ。

片倉氏のご承知のように、数十冊の台湾に関する紹介やガイドの著作を発表しているが、それらは単に表面的な叙述に終始するような観光案内ではなく、日本統治時代から現代にいたるまでの台湾を、参考書籍の研究や古老からの聞き取りによる事実調査は勿論のこと、人跡不明瞭な山中にも自ら足を踏み入れ、自分の眼で史実や事実を確認してから初めて著作に著わすという、努力を厭わない労作ばかりである。筆者も片倉氏の著作を数冊所持しているが、そこにある綿密なデータに従って、ポピュラーな観光名所ではない古跡を訪ねたり、新幹線で台南高雄を回ったり、その本のお陰で台湾の休日は大いに楽しんだものである。

氏は、1969年生まれの稲門出身、40歳前の新進気鋭の作家だが、同乗したバスの中でも気軽に台湾の歴史や取材の苦労話を語ってくれた。たいへん明るく気さくなお人柄であった。

そして、著作のあとがきには常に、撮影と取材に同行してくれている夫人への謝辞を記していることにも触れておきたい。

さて肝心の桃園神社だが、台北市内からバスで約50分、桃園県の県都桃園市の虎頭山公園山腹に遺跡として形をとどめている。

日本統治時代、台湾全島には200以上の神社があったが、国民党の反日政策によってすべてが破壊・撤去され、僅かにこの桃園神社だけが、文化保存団体や特に建築関係者の保存運動によって生き残り、「古跡」として保存されることになって修復され、今日、台湾唯一の“旧神社”として親しまれているのである。



< 手水舎は健在 >

ただし、この日本時代の“神社”は、日本色を徹底

的に駆逐しようとした国民党政府によって“忠烈祠”に衣替えした。拝殿内には賽銭箱、神苑には神馬像や手水舎、社務所などが残っているが、祭神は日本神話の神々や北白川能久親王などから、中華民国兵士の英霊に代わったのである。鳥居は形を留めているものの上部が撤去されて不完全であるし、参道の両脇に並ぶ石灯籠の日本語は削り取られていてあとかたもない。

とはいえ、関係者の努力によって残された拝殿や本殿などの雰囲気は、まさに“神社”そのものであるから、訪れる日本人は特別の感慨を覚えるに違いない。

しかし祭神となった中華民国兵士は日本人と戦って亡くなった中国人であって、台湾人とは何ら関係がない。したがって台湾人が忠烈祠に参拝して亡くなった兵士の霊を慰めることは稀であり、台北市の忠烈祠もそうだが、各地に散在する忠烈祠には関心があまり払われていないようだ。桃園神社が“神社”や“鎮魂の場”というよりも、地域の“公園”として家族連れやカップルに親しまれていると言われるのも、その辺に理由がありそうである。



< 本殿の額だけが中華色を示している >

祭神の変化はどうであれ、今を生きている日本人が感謝すべきは、生命を賭して台湾と日本を守ってくれた28,000人の台湾人英霊であろう。

ほぼ完全な形で残っている桃園神社は、遠く九段の靖国神社に祀られている英霊たちへの感謝の念を忘れてはならないことを、改めて思い起こさせてくれた。

それは、いくら時代が変わっても、日本人として記憶にとどめておかなければならない史実なのである。 < 終わり > (幹事・一色 徹)

注1. 片倉氏に案内役を引き受けていただいたのは、台湾校友會董会長、鄭幹事長のご尽力によるものである。

注2. 片倉氏のホームページは、  
<http://katakura.net/>

## 台北稲門会との前夜祭報告

(平成20年11月28日(金) 樺慶川餐店)

台湾校友會總會前日の11月28日19:00から、「樺慶川菜餐廳」にて前夜祭が開催されました。毎年台湾校友會總會の前夜、台北稲門会のお骨折りで懇親会を開催していただいておりますが、今年からこれを「前夜祭」と改めたものです。台北稲門会、日本人留学生、日台稲門会、行政書士稲門会、その関連の方々約30名が参加しました。

私は16:30台北着のフライトだったため、ホテルに到着後慌ただしく旅装を解き、会場に向いました。風があり少し寒かったのですが、ホテルから会場まで15分程度の距離を、街並みの変化を観察しながら徒歩で向かいました。会場に着くと既に多くの参加者が集合しており、彼方此方で懐かしい人達との交歓が始まっていました。

定刻になり三つの円卓に着席、台北稲門会・川田会長の挨拶、乾杯でスタートしました。次々に出てくる料理、久しぶりの本格的四川料理と本場

の紹興酒を堪能しました。

この日の主役は日本からの留学生、大学院博士課程で論文作成のため訪台した井手さん等若い校友でした。特に俳優志望の中江君、日刊ゲンダイの千葉崎君等が目的をしっかりとって、台湾でチャレンジしている姿がとても印象的でした。台北稲門会のメンバーも皆とても元気で、明日からの総会、娯楽活動、最近の台湾情勢等の話題に花が咲き、あっという間の2時間でした。全員で記念写真を撮り、色々なグループに別れての二次会を楽しみに散会しました。当会からは、岩永、一色、大嶋、新田、藤井、境、小野間の7名と同伴夫人3名、計10名が参加しました。

何時も素晴らしい会場と料理、楽しい懇親の場を企画してくれる長田幹事長や台北稲門会会員の皆様に非常感謝です。(幹事長・小野間記)



### 台北稲門会NEWS

#### 早慶ゴルフコンペに参加して



ドラゴン賞受賞者(左から二人目が小生)

(平成20年11月1日(土) 老淡水)

第35回「早慶ゴルフコンペ」は昨年11月1日(土)、55名のご参加により、台湾GC(老淡水)にて盛大に開催された。小生も戦績の悪い母校に少しでも貢献すべく、参戦しました。他に日本からは市川さんが、上海からは高橋さん(前台北稲門会会長)が参加されました。早朝5:15集合ですから、起床は4時。ほとんどの人が珍しく前日は二次会(林森北路)には行かず夕食後直帰。

しかし矢張り寝不足の感は否めない。されどここは伝統の一戦、緊張感のあるデッドヒートが繰り広げられた。プレイ後の表彰式では既に酔いが回った段階で、いよいよ団体戦の結果発表! 抜き

つ抜かれつ（第五組目までは早稲田のリード）で会場は大変な盛り上がりを見せた。が最後には質

量ともに選手層を厚くそろえた慶応に軍配が。詳細は以下通りです。

KEIO				DIFF	WSEDA			
No	NAME	GROSS	TTL		TTL	GROSS	NAME	No
1	小山	89	89	-1	90	90	岩永	1
2	白石	91	180	-1	181	91	塚田	2
3	柯(孫)	93	273	0	273	92	小山	3
4	陳(建)	93	366	1	365	92	何(淑)	4
5	菅波	94	460	1	459	94	阿部	5
6	村山	95	555	0	555	96	陳(光)	6
7	葉(添)	96	651	-3	654	99	村井	7
8	宮田	97	748	-6	754	100	董會長	8
9	風岡	97	845	-9	854	100	渡邊	9
10	張(士)	99	944	-10	954	100	周(正)	10

層の薄さで負けた早稲田。次回は日本からも大勢で助っ人に行きましょう。勿論在台湾の先輩、

後輩に先ず頑張ってもらっていますが。岩永康久（昭和44年政治経済学部卒業）

## 台湾関連NEWS

### 亞東關係協會の次期会長に彭榮次氏が就任へ

1月14日付「中國時報」によれば、馬英九総統は対日交流の窓口機関である亞東關係協會の会長に、李登輝元総統からの信頼が厚い彭榮次・台湾機械運輸公司董事長を指名することを決定した。亞東關係協會は2月5日に理事会を開き、新しい会長を正式に選出する。正式な外交関係のない日台間で、歴代会長の多くは駐日代表を務めた後に就任していたが、現任の陳鴻基会長は台湾團結聯盟（台聯）出身で陳水扁前総統時代に駐日副代表から抜擢された。今回の人選は、陳鴻基会長に続き李登輝元総統と関係が深い人物が対日関係をリードすることになり、馬総統が対日関係を重視し、強化したいと考えていることを示すと報じた。

同紙によると、彭氏は李登輝元総統の長年の

友人であり、日本の政財界とも幅広い人脈を持ち、台湾高速鐵路への新幹線システム採用や第四原発の日本からの輸入に関する日本側との協議で重要な役割を果たした。

また彭氏は昨年6月に発生した、尖閣諸島の魚釣島海域で台湾遊漁船が日本海上保安庁の巡視船と衝突し沈没した「聯合號」事件が発生した際、馬総統の書簡を福田首相（当時）に伝達する役割を担ったとされ、日台の対立沈静化に大きな貢献を果たしたとされる。

彭氏は総統退任後の李登輝氏の訪日旅行に同行したことがあり、彭氏の就任決定は馬総統と元総統との関係悪化を打ち消す効果もあるとみられている。

### 屋内公共施設を全面禁煙に

台湾当局は11日、公共施設の屋内での喫煙を全面的に禁止した。

既に台湾では、特定公共施設やオフィスビル内が禁煙となっているが、今回の法律では、全ての屋内公共施設での喫煙が禁止される。禁煙施設で

の喫煙が見つかった場合、最高で1万台湾ドルの罰金が科される。また煙草「健康税」を倍増し、煙草1000本、もしくは刻み煙草や葉巻1キロにつき500台湾ドルを課し、財政状況が厳しい国民健康保険制度に充てることを決めた。

## 平成20年秋期講演会・懇親会報告

(平成20年10月18日(土) 17:00～講演会、18:30～懇親会 新宿)天津飯店 本店)

総合司会の神田幹事より講師の自由時報東京支局長・張茂森先生のプロフィール紹介があり、引き続き『新政権発足6ヵ月後の台湾』と題して講演に入った。張茂森先生は79年京都大学入学以来の在日居住者であり、日本語は堪能である。以下講演抄録。

馬英九政権発足後6ヵ月の台湾と言ったが実際は5ヵ月、今日は政権及び日台関係の現状についてお話したい。

馬政権は、李登輝元総統以来8年振りの国民党政権だが、1988年に蔣経國政権が終焉して以来20年振りの外省人政権でもある。

当選時58%の得票率で78%の支持率だったが、5ヵ月後の支持率は24%まで下落した。

馬政権は、当選後台湾化を元に戻した。例えば、「中華郵政」「台湾郵政」「中華郵政」「大中至正」「自由広場」「大中至正」「中正紀念堂」「台湾民主紀念館」「中正紀念堂」

## 国家主権を否定する発言

台湾国民は国家元首を選んだはずであるが、中華民国は国家ではない、国家主権はないと発言した。

海峡兩岸関係協会(大陸側代表機構、台湾側は海峡交流基金会)陳雲林会長の台湾訪問時、馬総統を中華民国総統ではなく、馬「先生」、馬「区長」と呼ぶこととした。

また毒粉ミルク問題が未解決であることから、先に謝罪があって初めて陳雲林の台湾訪問を認めるべきだと民進党、台連が主張、10月25日に50万人デモが行われる予定。

## 外交の失敗

外交休戦宣言を行った。その結果数少ない台湾承認国との関係が悪くなった。台湾支持のアフリカ友台協会は活動ストップ、WHOへのオブザーバー参加は否決され、国連総会には出席できない。

## 国防の不安定

野党時代にアメリカからの武器の購入に反対し続けてきた(政権奪取後認めた)。国家主権がないのなら軍は誰のために戦うというのか。

## 教育問題

大陸での学歴を認め、留学を受け入れている(成功大学)。台湾人の税金で大陸の若者を養う。

## 経済問題

総統選挙時の公約「633」(経済成長率6%、1人あたりの国民所得3万NT\$,失業率は3%以下)が達成できない(不可能なので現在延期)。2期目のLAST YEAR(最終年)に達成すると宣言した。(2期目もやるつもり?)経済好転のため大陸との統一を目論む。これには国民党内部からも反発がある。

馬総統は対日関係の悪化を企んでいる

李登輝元総統、陳水扁前総統は日本と組むことで大陸と対抗しようとしたが、馬総統は大陸接近を図り、大陸と組んで日本に対抗する考えである。

## 観光問題

大陸なしで台湾経済は成り立たないと主張。大陸の観光客を3000人/日呼び、年間500億NT\$の外貨獲得という構想。しかし多くて250人/日の現実、多額の先行投資が無駄になった。

馬政権は外来政権、馬総統自身蔣経國の部下であり、考え方は似ている。しかし、蔣介石が大陸反攻であったのに対し馬総統は大陸寄り。

総統選挙時の公約で、株価を20,000ポイントまで上げると宣言したが、下落後公約はジョークであると言いつれした。

国家安全会議諮詢委員・楊永明氏の台湾駐日代表就任を、大陸は妨害した。楊永明氏は、知日派として知られる。

民進党前政権時代の有力者の逮捕を行っている。陳水扁前総統一家の事件も軽微な外為違反。

台北に51クラブというのがあり、アメリカの51番目の州になることを目指している。

講師プロフィール：張茂森(ちょう・もしん) 1948年台湾嘉義県で生まれ、72年台湾師範大学社会教育新聞学科卒業、「台湾日報」入社。「中国時報」政治部記者を経て、79年京都大学に留学、比較社会教育を研究。82年「台湾日報」東京支局長、96年から台湾の最大手新聞社「自由時報」東京支局長、現在に至る。在日通算24年。駐日台湾媒体特派員連誼会会長。著書：「台湾の戦略—逆襲する」、「[奥姆帝國]殺戮黙示録」(台湾日報社)など。

共著として「台湾二千万人の選択—統一か独立か、李登輝総統の改革とその将来」(面影橋出版)、「運命共同体としての日本と台湾—ポスト冷戦時代の国家戦略」(展転社)など。

講演会終了後、懇親会に移った。

講演会に引き続き、総合司会の神田幹事が開宴を宣し、石川会長が開宴挨拶を行って開宴。開宴後も張講師に出席者から次々と質問が飛び、食事もままならなかった様子だった。

食事後は、広島から転勤の井上会員の挨拶、小野間幹事長による会の行事紹介(2008年台湾校友会総会等)、北村幹事の挨拶で終宴となった。

出席者(ABCは卓表示)

A：張講師、石川会長、木村幹事、岩永幹事、井上会員、橋本会員 B：市川会員、丸山幹事、大嶋幹事、田村会員、神田幹事、齋藤幹事 C：一色幹事、萩原会員、小野間幹事長、関口会員、川村幹事、栗山会員、北村幹事

(文責・齋藤)

## 会員コラム

1. 当会会計担当幹事川村淳一さんが本年1月中旬ミャンマーに赴任。ご苦勞様でした、幹事一同御礼申しあげます。お身体に氣をつけてお過ごしください。
2. 新会員紹介  
次の方から入会の申し込みがありました。会員・会友一同心より歓迎します。

嶋田 浩一さん 平成2年教育学部教育学科卒業 所属先：都市美装(株)

河合 洋さん 平成10年政治経済学部経済学科卒業 所属先：(株)東京企画

## § 台湾で評判の「海角七号」映画評 §



11月末台湾校友会総会で訪台した際、多くの台湾人からは是非観てみろと勧められた映画「海角七号」を会員の皆さんにご紹介します。

この映画は台湾人と日本人3世代に渡る恋愛物語で、使われる言語は日本語と台湾語、映画館では中国語と英語の字幕が出ます。

映画は1945年12月25日、台湾からの引き上げ船の出航の場面からスタートします。

引き上げ船の中で、日本人教師が台湾に残した恋人へ宛てて書いた7通の恋文が下敷きとなり、60年後の現代の、台湾人青年と日本人女性の恋物語が進行します。題名の「海角七号」は恋人の住所です。

物語の舞台は台湾南部恒春の街、台北でミュージシャンを挫折した主人公の「阿嘉」は故郷に帰

り祖父の手伝いで郵便配達の仕事を始めますが、彼の手許に「海角七号小島友子様」の郵便が届きます。引き上げ船の青年は日本で結婚し、彼の死後娘が遺品の中から発見した手紙を、その住所に送ってきたものでした。一方日本人歌手「中孝介」をこの街に呼んでコンサートを開催する計画が進み、これをプロデュースする日本人、友子（恋人と同名）が、前座を務める住民のバンドを結成する。これに「阿嘉」も参加しますが、「阿嘉」と友子是对立し関係がギクシャクします。随所に恋文のナレーションが流れ、その場面にかぶさるように「阿嘉」と友子の関係が進展してゆきます。

無事郵便物を小島友子に届け駆けつけた「阿嘉」と仲間が、夕日が水平線に沈むと同時に「無楽不作」（この映画の主題歌）を演奏するクライマックスは感動的です。

全編を通じ、台湾人の明るさ、優しさ、善良さ、逞しさが上手く描かれており、台湾語での会話は大阪吉本のかけ合い漫才を見ているようで、映画館の中でも爆笑が溢れていました。正にこれが台湾人の本質ではないかと思えます。台湾人を理解する上でもお勧めの映画です。

この映画は無名の俳優中心に制作されていますが、映画が大当たりですっかり人気者になり、私が訪台した時期連日TVに登場していました。主役の「茫逸臣」のCDは品切れになり、「阿嘉」の祖父を演じた俳優はCMで大人気、地酒「馬拉松」の売上も倍増したようです（小野間記）。

## 『海角七号 (Cape No. 7)』は6部門受賞、台湾版オスカー「金馬賞」

台湾版オスカーともいわれる第45回金馬賞の授賞式が台中で開催され、日本女優田中千絵も出演し、台湾史上最高のヒット作となった『海角七号』が6部門で受賞した。

最佳男配角、觀衆票選最佳影片、年度台湾傑出電影、最佳原創電影音樂：呂聖斐、駱集益、最佳原創電影歌曲：國境之南（詞：嚴云農、曲：曾志豪、唱：范逸臣）、

年度台湾傑出電影工作者

※以下は主要部門の受賞結果一覧。

■作品賞：『投名状』 ■監督賞：陳可辛『投名状』

■主演男優賞：張涵予『集結號』 ■主演女優賞：

劉美君『我不賣身、我賣子宮』 ■助演男優賞：馬

如龍『海角七号』 ■助演女優賞：梅芳『囧男孩』

## 会 合 予 告

### 『第13回日台稲門会定期総会・第10回日台交流の集い』のご案内

日 時：平成21年5月23日（土）

定期総会 15:00～15:40

講演会 16:00～16:50

交流の集い 17:00～19:00

会場：大隈会館

講演会：財交流協会台北事務前所長・池田維氏

※講演会・交流の集いには会員以外の方も参加できますので、奮ってご参加ください

当会会員 西脇久夫さん（ポニージャックス）からのご案内です。

### 「W-DAY～都の西北 声の集い～」

日 時：平成21年2月11日（水・祝）16:30 開場 17:00 開演

会 場：「シアター・サンモール」 東京都新宿区新宿1-19-10 Tel: 03-3352-5577

地下鉄丸の内線「新宿御苑前」下車 2番出口徒歩3分

出 演：AJI、TRY-TONE、ポニージャックス、Capital gain

チケット：前売り券4000円、当日券4500円（何れも全席自由席）

※ 早稲田大学ア・カペラグループサークル「Street Corner Symphony」出身のAJI、TRY-TONE、「早稲田大学グリークラブ」出身のポニージャックス、ストリートで活躍中のCapital gainの先輩、後輩ジョイントコンサートです。

## § 台湾関連書籍紹介 §

### 図説 台湾の歴史

本書は台湾人によって書かれた台湾の歴史である。台湾人の立場に立って書かれた台湾通史には史明の『台湾人四百年史』があるが、マルクス主義史観も仄見え、史実の記述は評価できるが一般には馴染まないと思う。

台湾国内で書かれた、台湾人の視点による台湾史は、以前は大変珍しかった。小生が台湾駐在の頃、莊永明の『台北老街』、『台湾記事（上下）』、『台湾第一』などがあったが、後で考えると1987年の戒厳令解除後に出たものであり、それまで史明も含めブラックリストに載っていた黄昭堂、戴國輝らの作品は皆日本で書かれたものであった（だから日本人の方が詳しかった）。

さて、本書の目次は次の通り。

本篇 先史時代～1945年（誰の歴史か？／先史時代の台湾／先住民とオーストロネシア語族系／「美麗島」の出現／漢人の故郷と移民開拓時代／漢人と先住民の関係／日本統治時代—天子が代わった／二大抗日事件／植民地化と近代化／戦争下の台湾）

戦後篇 ポストコロニアルの泥沼（二・二八事件／「白色テロ」の時代／党国教育／民主化運動）

本篇の第1章「誰の歴史か？」から考え込まれる。台湾には有史以来様々な種族が渡来し共存してきたが、現在複数の群族が暮らす台湾で歴史を書く場合、どの視点に立つかが先ずある。

またある時期から外来政権に支配されるようになったため、台湾史は辺境史として捉えられてしまい、自らの歴史が記憶でしか留められなくなった。そのため、オーラルヒストリー化した台湾史を記述するのはとても困難である。そんな台湾固有の複雑な歴史を、群族の視点を意識しつつ著した作品である。

かなり内容の充実した作品であり、日台稲門会会員には是非お勧めしたい一冊です。歴史って何だろう。

周婉窈＝著 濱島敦俊＝監訳／石川豪・中西美貴＝訳 平凡社2007年2月発刊 2,940円（税込）



## 編 纂 記

当会は会則にあるように会員親睦、母校発展、台湾交流を旨としており、台湾校友会総会への参加関連記事はそれを遺憾なく発揮していると思う。惜しむらくは参加者が年々固定化していることで、今後とも新規参加者の増加が望まれる。またその他の当会活動にも、さらに多くの会員が参加して頂けるようこれからも知恵を絞りたい。

台湾はアメリカ以上にチェンジ(変化)を重ねている。蒋介石、蔣經國、李登輝、陳水扁ら国家元首が交替する毎に、トレンドが変わってきた。顧みれば当会もこの十一年間、寺田初代会長から故村野名誉会長、白鳥前会長、石川現会長と歴史を刻んできたし、活動内容も大分変わった。継続は確かに力だがそればかりでなく、日台の懸け橋として存在感をだしてゆきたい。先ずは弛まぬ会員募集の努力と当会活動への参加者増加。集まり散じて人は変われど仰ぐは同じき日台の理想。広報活動がその一助になればと、日々研鑽を続けております。

当会会計基準日が十二月から三月に変わったことにより広報発行日も延び、編集子も少しは楽になったかな、と思いましたが、能力は低下しつつあるので苦しさは聊かも減らず。次回は総会に合わせて会報を出しますが、会員の皆様の記事が主体になります。これからお願いのご案内をしますので、ご準備の程よろしく。（齋藤）